


 参加費
無料

日本企業による アジア展開と 海外子会社管理における課題

近年大きな拡がりを見せていた日本企業によるアジア展開は、中国景気の不透明感や現地コスト増などから一服感を見せていますが、他方、26年改正会社法におけるグループ内部統制の法本体への規定といったトピックの影響もあり、近時は海外子会社管理に関する注目が集まっているようです。本セミナーでは、当該業務に携わる当事務所の弁護士に加え、グローバルファームであるDentonsのシンガポールオフィスであるDentons Rodyk & Davidson LLP(デントons・ロダイク)から複数の弁護士をお招きして、海外子会社管理を巡る課題とその処方箋について解説します。

大阪

2016年**10月18日**(火)
13:15~15:45 (受付開始12:45)

会場

AP大阪淀屋橋 4F 南Bルーム
大阪市中央区北浜3-2-25 京阪淀屋橋ビル 4F

東京

2016年**10月20日**(木)
13:30~16:00 (受付開始13:00)

会場

TKP新橋カンファレンスセンター ホール4B
東京都港区西新橋1丁目15-1 大手町建物田村町ビル 4F

対象 海外事業・子会社管理に携わっておられる方、法務・コンプライアンスの方

定員 **70**名

共催 弁護士法人中央総合法律事務所
Dentons Rodyk & Davidson LLP

お申込み ※事前のお申込みが必要となります。

以下の項目をご記入のうえメールをお送りください。
お名前/貴社名/部署・役職名/電話番号/住所/返信先メールアドレス

大阪会場 seminar_osaka@clo.gr.jp

東京会場 seminar_tokyo@clo.gr.jp

問い合わせ先

大阪会場 TEL : 06-6365-8111
担当 山口 奈月

東京会場 TEL : 03-3539-1877
担当 鶴岡 真由子

※お申込者が定員を超えた場合、同じ企業からの複数のお申込みについては、人数を制限させて頂く場合がございます。予めご了承ください。

海外子会社管理を巡る法的責任と日本企業に求められる対応

1

スピーカー: 金澤 浩志 弁護士

海外の子会社において不祥事が発生した場合には親会社にはどのような責任が発生することになるのか—法律制度やカルチャーの違いから生ずる様々な課題を有する日本企業による海外子会社管理においてどのような対応が求められるのかについて、近時の法改正や裁判例等を踏まえて、検討する。

2

国際的なM & A取引におけるチェックポイントと海外子会社管理における留意点 大阪会場

スピーカー: 中務 正裕 弁護士

海外の相手先と現地で合併企業を設立したり、海外の会社を買収したり、出資する場合など、国際的なM & A取引において、押さえておくべき留意点や注意すべき契約条項等について、具体的な取引実務をふまえ、チェックリストに基づいてわかりやすく解説する。また、実際に海外に子会社を設立した場合、日本の本社側からみて、どのような点を実務上留意すべきかについても触れる。

海外子会社の管理における日本企業の陥りやすい問題 東京会場

スピーカー: 安保 智勇 弁護士

言語やカルチャーの違いから海外子会社の管理は日本国内の子会社管理とは異なる視点が求められる。本講演では、過去に経験したトラブル事例を踏まえて日本企業の陥りやすい問題及び問題点を避けるための対応について、具体例を基に考察する。

3

海外子会社管理法務の3つのポイント(シンガポールの実例を中心として)

スピーカー: 中川 真理子 弁護士

東南アジア進出後に現地の法務ノウハウを十分に有する日本企業は必ずしも多くない。日本からのバックアップや定期的な管理は欠かせないものの、法制が異なる東南アジアでは、法務を日本から全て管理することも困難を伴うため、本講演では、アジアにおいて特に注意して現地管理することが必要な項目にどのようなものがあるかにつき、国際間の契約、買収・合併後の現地管理、債権回収・紛争解決という重要性の高い3項目を中心に、具体例を交えて(失敗例も含め)現地が今直面する法務の課題と、課題に直面した場合のチェックポイント、法的手当や選択肢につき解説を行う。

4

パネルディスカッション アジア子会社の適切な管理のための処方箋

スピーカー: 中務 正裕 弁護士(大阪会場のみ)、安保 智勇 弁護士(東京会場のみ)

金澤 浩志 弁護士、Ng Eng Leng 弁護士、中川 真理子 弁護士(大阪・東京会場)

日本企業の親会社に対してアドバイスを提供することの多い中央総合法律事務所の弁護士と、アジア現地の子会社に対してアドバイスを提供することの多いデントンス・ロダイクの弁護士が、パネル形式で、それぞれの目線から見た適切な子会社管理のための処方箋について議論する。

スピーカー紹介

大阪会場

中務 正裕



中央総合法律事務所パートナー弁護士(日本・NY州資格)。インド、タイ、ベトナム、中国、欧州、米国を含む数多くのクロスボーダー取引、国内外におけるM & A案件の経験を有し、国際紛争、国内商事訴訟の代理人を務める。金融法務分野においても幅広く対応し、米誌Best Lawyersにおいて2014年~2016年と連続し、The Best Lawyers in JapanのBanking and Finance Law分野において高い評価を受ける。現在、上場会社4社における社外取締役。前大阪弁護士会副会長。

東京会場

安保 智勇



中央総合法律事務所東京事務所長パートナー弁護士(日本・NY州・ミンガン州資格)。国際的なM & A、規制、取引、紛争案件を含むビジネス法務全般を取り扱う。社内不祥事の調査や海外企業とのジョイントベンチャーをめぐる法的紛争案件にも豊富な経験を有している。

弁護士法人
中央総合法律事務所

DENTONS **RODYK**

大阪・東京会場

金澤 浩志



中央総合法律事務所パートナー弁護士(日本・NY州資格)。米国への留学後、シンガポールにてRoddyk & Davidson LLP(現デントンス・ロダイク)にて実務経験を経た後、帰国。平成26年1月から2年間、金融庁監督局総務課に課長補佐として勤務(兼国際監査室)。アジア各国への日本企業の進出のサポートや、国内外の企業間取引、M&A・リストラックチャリング、コーポレート・ファイナンス、及び各種規制対応を含む金融法務全般を取り扱う。

大阪・東京会場

Ng Eng Leng



デントンス・ロダイクのシニアパートナー弁護士(シンガポール・マレーシア・英国資格)。上場企業を含むM&Aを中心とする企業法全般が専門。シンガポール国内はもとより、東南アジア域内を中心とするクロスボーダー案件における商業取引に関する法的アドバイスやストラクチャリングなど、現地ビジネスに精通し実務重視のアドバイスを得意とする。日系企業案件も多く取扱う。

大阪・東京会場

中川 真理子



デントンス・ロダイクのパートナー弁護士(オーストラリア・シンガポール商業法資格)。シンガポール商業法資格を有する数少ない外国法弁護士として、12年以上に亘り現地にて日系企業や邦人のニーズに特化したアドバイスを提供する。東南アジア進出、進出後の法務、コンプライアンス、東南アジア域内M&Aを中心に企業法一般に携わる。訴訟案件での日系顧客サポート経験も豊富。